

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	日々の申し送り時や、毎月行う会議等において、各職員への理念の共有の確認を行い、全職員で工夫・活動へ結びつけるように実践していきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		今後についても、よりよい関係を築き、気軽に訪問して頂けるようにしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	次年度については、「クリーン作戦」として年2回、地域のゴミ拾いを実施予定にしている。少しでも地域の方にとって頂き、地域の輪の中に入れるよう、日々努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	まだ実施していない。	○	まずは当ホームから発行する便りに、介護を通して専門知識の提供等、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年度の事業方針に掲げており、今回実施する。	○	今回の受診を通して、サービス内容の改善に努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、委員より意見を頂いている。またこちらからの相談にも応じて下さり、地域とのパイプ役として、大変心強い。今回の受診する事についても報告している。		受診結果が出次第、運営推進会議にて報告予定としている。結果を通して、意見やアドバイスを頂くこととしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上分からないことがあったりする場合には、市へ問い合わせ等している。担当施設長(開設者)が積極的に市町村に出会っている。		現段階において要支援の利用者の入所はないが、地域包括センターとの連携も必要になってくるため、連携してサービスの質の向上に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現段階において後見制度の対象者がいないため、必要性には迫られていない。	○	情報提供、相談を受けた際に説明ができる準備は整えていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	書面を以って全職員に対して、高齢者虐待防止法については学習をしている。また認識を持った上で日々のサービス提供に努めている。		外部研修を受ける機会があれば、積極的に参加していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等書面にて同意、説明をしている。 御家族からの質問、疑問については、相談があったその都度、説明をさせて頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決システムの仕組みを規程し、苦情を密室化せず、円滑・円満な解決の促進に努めている。また「第三者委員」を設置し、苦情を申し出やすい環境の整備に努めている。	年度末に法人として第三者委員、苦情受付担当者、苦情解決責任者が一堂に会し、講師を招いて研修会を開催し法人広報誌等に記載し、関係機関、家族等に配布している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康面や生活状況については、毎月開催している御家族との交流会の際や、特に変化があった場合には電話連絡をしている。職員の異動については現段階ではない。	このまま継続していく。職員異動の報告については、便りに記載したり、必要に応じて個々に応じた対応をしていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決システムの仕組みを規程し、苦情を密室化せず、円滑・円満な解決の促進に努めている。また「第三者委員」を設置し、苦情を申し出やすい環境の整備に努めている。その他運営推進会議においても、家族代表からの意見も取り入れ、反映させている。また今回の外部評価における家族アンケートもよい機会と捉えている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催されている職員会議にて、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。また個々の職員へも聞く機会を設け、反映につなげている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化、要望については職員への連絡、意識の統一を図っている。職員確保については、介護保険法における人員配置は確保しているものの、柔軟に対応するための勤務の調整は十分にできていない。	○ 次年度に向けて、柔軟に対応ができる職員数の確保を調整中である。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現段階においては、職員異動はない。	離職・異動があった際には、利用者へのダメージを最小限に留められるよう、日々の関わりを大事にして努力をしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業計画において、年間の研修計画を立て実施している。職員会議等において、研修報告を取り入れている。しかし正規職員が主で、全職員による研修参加には至らなかった。</p>	<p>○</p> <p>法人内外研修において実施しているが、充分とはいえない。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内をはじめ、福知山市内の同業者とのつながりはあるものの、グループホームが少なく、ネットワークづくり等には至っていない。</p>	<p>○</p> <p>同事業者や病院からは勉強会のお誘いもあり、できる限りではあるが参加している。今後もこのような機会を通じて、ネットワークづくりに努めていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員会議等や個々の職員に対して聴く機会を設け、助言、アドバイスを行っている。また必要に応じて、環境づくりにも取り組んでいる。また人事考課による面接等も含めて、取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>ストレス等に関しては、個々の職員の捉え方に大きな差があると考えられる。この差を埋めるには、もっと話し合いやお互いの確認を行っていかなければならない。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々の職員の勤務状況や実績については、把握している。また資格取得において優先的に日程調整をしたり、研修情報の提供に協力的である。</p>	<p>○</p> <p>研修においては全職員が受けられる状況になかったため、次年度においては全職員が研修を受けられるよう、計画的に遂行していきたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者からの相談を十分に聞かせて頂いた上で、説明を行い受け止めるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族からの相談を十分に聞かせて頂いた上で、説明を行い受け止めるよう努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接については、当該利用者のケアマネにも同席をしてもらい、本当に必要とされているサービスについても、視野にいれながら対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には特に、家族との話し合う機会を充分に作って頂くことを伝えた上で、事前にホームの見学をして頂いたり、他利用者との会話の機会をつくり、場の雰囲気を知って頂くよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当法人の理念「共生 共に生きる」の下、利用者と共に食事作り、洗濯、掃除、農園作業、余暇活動等、活動して頂けるよう努めている。また教わる事も多く、お互いが支えあう関係作りに努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	遠慮なく話し合える関係作りを築きたいため、毎月必ず家族が参加頂ける行事を開催している。また必要に応じては電話連絡等させて頂いている。その中で家族の協力なしでは、支えてはいけないという認識を職員は持っている。その上で関係作りは重要であるという認識を持ち、よりよい関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日々の生活において、必要に応じては電話連絡を入れて報告をしている。また行事等においても一緒に過ごして頂く機会として、毎月参加頂けるよう開催している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の了承の下、昔からの友人や知り合いが会いに来られている。また家族の協力を得て、馴染みの場所への外出もされている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の生活の中で、利用者同士の関係づくりに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在のところ相談は受けていない。		退所後の訪問実績はない。 退所された利用者の近況状況については、お話を聞かせて頂いた。 必要に応じては、システム化することも検討したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の表情や言葉、行動や、必要に応じて家族からの協力を得て、個別サービス計画書を作成し、日々その人らしい生活が継続されるよう支援に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の施設や、家族から引継ぎや情報提供を頂いている。また日々の関わりの中での会話や言葉など、その人の生活歴が伺えるものについては記録を残している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別サービス計画書にて支援内容を明記し、職員間の情報共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会の際には、課題や支援のあり方についての話をさせて頂いている。また必要に応じて、本人・家族・職員との話し合いの場を設け、介護計画に反映させるよう努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じて、本人・家族・職員との話し合いの場を設け、介護計画に反映させるよう努めている。また必ず家族からの協力、了承を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子は、個別に記録を残している。情報共有すべき内容については、園務日誌・夜間日誌に別記し、全職員が目を通し、実践につなげるよう努めている。またその記録から、必要に応じて介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現段階では必要性に迫られてはいないが、当法人においては併設施設もあり、協力体制が得られる。また隣接している法人内の保育園との交流事業も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティア、学校等の関わりが持っている。特に民生委員については運営推進会議に参加頂いている。また消防署についても訪門して頂き、今後の訓練や非常時の対応等の指導や協力を得られる体制づくりに努めている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	以前利用されていた居宅事業所とは、電話連絡や必要に応じて意見交換をしている。	○	他サービス利用については、本人や家族の希望が、今のところないため、支援には至っていない。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状においては必要性には迫られていないが、今後必要と検討された場合には、協力を求めていく。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と契約はしているが、基本的には本人や家族の意志に沿って、かかりつけ医の対応をしている。また往診して下さる医院もあり、関係づくりや連携に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>次年度において、重度化に対応できる環境を整えていく予定である。終末期における方針についても、家族との話し合いを充分に行った上で、明確にしていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>特に重度化における体制づくりは早急に必要であり、環境を整えていくと同時に、チームとしての支援が提供できるよう、準備をすすめていく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々に応じた言葉掛けや対応を心掛けている。またプライバシーの配慮の観点から、場所を変えたりして対応に努めている。記録の書類については、指定場所に保管している。	○ 日々言葉掛けや対応には充分気をつけているが、お互いが注意しあえるような環境も作っていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の利用者からの言葉や感情表現がしやすいよう、職員からの働きかけに努めている。その中で本人の意思を尊重しながら対応に努めている。しかし外出支援については、当ホームの職員だけの対応にも限界があり、特に頻繁に希望している方については、家族の協力を得てその機会を作っている。	○ 外出支援に関しては、個々の希望や状況により個人差が見られる。できる限り当ホームの職員が幅広く対応できるような体制づくりをしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別サービス計画書に基づいて、一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けている。個別対応が先行し過ぎて、職員間の連携がうまく噛み合わない事がある。	○ 職員会議や介護職員会議等で、意識確認を徹底していく。また日々の業務の中で、お互いが「目配り・気配り・心配り」をしながら対応していくよう、意識を高め働きかけていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的には、在宅生活において馴染みのある理容室・美容室へ行って頂いている。出来る限り家族での対応をお願いしている。また日々の生活の中においては、できる限り自分で着る服を選んで頂いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々でできる部分において、食事作りに関わるよう努めている。例えば包丁は難しいが、皮むき器を使用する等。それぞれに役割があり、積極的に準備・食事づくり・片付けをして頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	基本的には、選んで頂くよう心掛けている。お酒・煙草については家族の意向や医師から指示の下、対応させて頂いている。おやつについても希望されている方については、自分で購入し食べて頂く事も対応しているが、過度にならないよう、家族に了承を得ながら対応している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	プライバシーに配慮をしながら、時間別にチェックを行い、個々に合わせた排泄介助に努めている。なかには紙パンツ使用から、布パンツへ移行できたケースもある。また夜間についても定時に排泄支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりのタイミングや状況に応じての対応には努めている。また一般浴にて個別対応に努めている。しかし限られた職員と時間の中での対応では、充分に要望にはお応えできていない。	○	個々のニーズ調査を行い、また医務との連携を図った上で、夜間での入浴対応も検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調やリズムに合わせて、他者への配慮をしながら個別対応に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	十分に個々の生活歴を把握できていない事もあって、全ての方にその力が発揮できるような支援には至っていない。またその場面づくりも提供できていない。	○	個々の生活歴については家族の協力から情報を得る。その情報からその人らしく活力のある生活の提供に努めていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては家族の了承の下、少額であるがお預かりしている。個別の外出時にお渡しし、買い物の際には可能な方に限られるが、支払いをして頂いている。こちらでお預かりしているお金に関しては、記録を残し定期的に家族への報告・確認をしている。また家族の了承の下、自分で所持されている方もある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の状態を見ながら、外出支援に努めている事もあり、回数に偏りが見られる。散歩や農園作業等の戸外活動については、個々の希望に沿っての対応に努めている。	○	外出状況表を作成し、全職員が確認できるようにしている。個々の希望や状況に応じて対応に努めていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	当ホームの年間行事に外出も取り入れてはいるが、個別対応における外出支援に関して、対応出来かねないところは家族の協力を得ている。また家への思いの強い利用者に対して、確認のため家へ立ち寄るといった対応も行ったが、それが返って他者や職員との関係づくりに支障を来す恐れもある。	○	利用者との関係についても、その人の生活の全てに関わる以上、一線を置かなければならない場面もあると思われる。その加減を掴んでいかなければならない。家族に協力を得なければならない事柄については、家族の了承を得て、共に対応に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方については、自分で公衆電話から電話をされている。公衆電話から警察につながった経緯があり、状況に応じて対応をしている。	○	手紙という手段での支援はできていない。字を書くという事ができる方については、家族の協力を得て年賀・暑中お見舞いなどやりとりのできる支援につなげていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会については時間制限はしていない。状況によるが基本的にはいつでもお越し頂けるようにしている。また個々の居室や談話室で過ごして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアに努めている。 またマニュアルを作成し、全職員に対して意識向上に努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者・家族に心理的圧迫感を与えないよう、日中は玄関の鍵を掛けず自由に出入りのできる体制に努めている。またそれに伴い事故につながらないよう見守り・対応に努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者の健康面・精神面・行動面等の情報交換を行い、所在確認、状態確認に努めている。また夜間においても、2時間毎に見回り、安全確認に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自己管理のできる方については、見守り・確認を行ないながら所持をして頂いている。 内服薬については、看護師にて管理をしている。 現在異食の方はないが、危険と思われる物品については、職員目の届く場所や利用者の手が届かない場所に保管・管理している。	○	鍵をかけての保管・管理はしていないが、必要に応じては保管・管理方法を検討し、対応していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故があった場合、危険と思った場合には、事故報告書やヒヤリハット報告書の提出及び各職員への意識徹底を図っている。また行方不明時の対応、緊急対応についてはマニュアルを作成し、各職員の意識徹底に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年数名、救急救命士による研修を受講しているが、今年度は心肺蘇生法の研修受講に至らなかった。心肺蘇生マニュアルについても作成中である。	○	次年度については、心肺蘇生法の研修受講を予定している。また研修受講を元に、マニュアルも作成していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	当ホームにおいては、火災に備えてスプリンクラーを設置している。また月に1度、避難訓練を実施。緊急時においては、非常召集体制を取っている。地域の方については、まだ十分に協力体制を得るに至っていない。	○	運営推進会議において、地域代表の方には協力依頼をしている。しかし日頃から気にかけて頂けるような関係づくりを、積み重ねていかなければならない。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状況を見極めながら随時、家族への報告や説明を行っている。その上で家族に相談し、対策をとっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日食事摂取状況、排泄状況を確認し記録している。またバイタルチェックも随時行っている。入浴時においては、全身の状況確認実施。異常時には看護師に報告し、必要な対応を指示している。また必要に応じて家族連絡を行い、通院対応をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況は、個々のケースに綴じており、全職員が確認できるようにしている。また服薬時においては、必ず職員が立会い見守り、介助等対応している。変薬、変量の際には、当ホーム看護師より報告、指示を行い、確認の徹底に努めている。	○	ある程度の薬の目的や副作用等については、看護師からの報告説明もあり、認識はしているものの、繰り返し確認を行う必要はある。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	普段の食事には、繊維物を取り入れるよう心掛けている。また水分を充分に取って頂いている。個々の状態によるが、ラジオ体操や散歩など、身体を動かす取り組みも行っている。便秘のひどい方については医師の処方により、下剤服薬もされている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分で可能な方については、毎食後歯磨きをして頂いている。但し気分のムラによっては、実施できないときもある。また入れ歯の方についても、入れ歯洗浄を実施している。口をゆすぐ事が困難な方については、お茶を提供し飲んで頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	○	必要であれば、法人内の栄養士に定期的に、献立表を見てもらいアドバイスを受けていく。
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		今のところインフルエンザは発症しなかった。次年度においても家族の協力を得て、予防に努めたい。
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		心地よい環境づくりについては、今後も利用者に合わせて対応していく。
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、本人が使い慣れているものを持参して頂くよう、お願いしている。家族の写真を飾られたり、自分がかわいがっていたネコの写真を飾っておられる。居室のレイアウトについても家族に相談・了承の下、させて頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の状況や希望に沿いながら、温度調節をしている。また体調面の配慮から換気等、こまめに実施している。乾燥対策としてはタオルを湿らせ、掛けておく。また食堂には空気清浄機を設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室においては個々の馴染みのものを搬入してもらい、使いやすいように配置をしている。また廊下に手すりの設置、床・廊下等にはクッションが入っている。実際に入所当時より歩行が安定してきた方もおられる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々に合わせて、その方の習慣等を大切にされた対応に努めている。また個々の尊厳や自尊心を傷つけないような、声掛けや対応に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外には畑、駐車場周りには花を植えるスペースがある。四季折々の作物や花を植えて頂いたり、世話をしている。また中庭では普段は洗濯物を干して頂いているが、天気の良い日には、お茶を楽しんだり、バーベキューを楽しんだ。また梅の天日干しや漬物をつけたりと色々と活用に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)